

# 労働図書館新着情報

今月の10冊(日本十進分類[NDC]順に掲載)

①小池和男著『日本産業社会の「神話」』日本経済新聞出版社(278頁,B6判) 日本産業社会には、個人間競争が乏しい、等の集団主義の神話、民間企業の実力を軽んじる「政府のお陰」神話等多くの神話が存在している。その原因は、国際比較における他国の状況把握のあやしさにあるという。事実に基づく政府の政策や企業の方針を懸念する小池先生には、既に愛国士の雰囲気か漂っている。	⑥航空労働研究会編『航空リストラと労働者の権利』旬報社(606頁,A5判) 序文を含め606頁の大作であるが、労働法や労働組合活動等についての基礎的な情報も併載されており、航空関係に焦点をあわせた章は、航空産業における不当労働行為事件と航空機乗務員の勤務を扱った章のみである。タイトル通り労働者の権利を巡るとともに、航空労働者の実態を垣間見る際に参考になるであろう。
②フランソワ・エラン著『移民の時代』明石書店(151頁,B6判) フランスは家族政策が功を奏し、高い合計特殊出生率を誇っている。それでも人口減少は免れず、少子高齢化社会の問題を抱えることになるが、フランスの頼みは人口の8%を占める500万人の移民である。移民に扉を閉ざしている日本にとってフランスの事例は、人口政策を検討する際の重要な先例・教訓となるであろう。	⑦仁田道夫他編『日本的雇用システム』ナカニシヤ出版(309頁,A5判) 日本の雇用慣行・雇用システムは、いつ、どのように形成されたのか。本書は雇用システムの歴史的形過程を明らかにしようとした5人の研究者の成果である。「日本的雇用システム」という言葉が不用意に使用されることが多いが、賃金制度や能力開発、労働組合や人事部等の日本のシステムが分析対象となっている。
③太田正孝著『多国籍企業と異文化マネジメント』同文館出版(14+274頁,A5判) 本書は、国際ビジネス研究における異文化問題をシステマティックに解明するとともに、異文化マネジメントを自律的な研究領域として確立することを企図しているという。効率性、ファイナンス一辺倒の時代から、文化・環境が重視される時代に豊かな生活を追求するとき、多国籍企業の総合的分析が不可欠となっている。	⑧伊藤健市他編著『ニューディール労働政策と従業員代表制』ミネルヴァ書房(x+280頁,A5判) 本書は、大不況後のニューディール型労使関係の構築に従業員代表制が与えた影響を明らかにすることを目的としている。現代アメリカの労使関係の理解に不可欠だと認識されているからである。GE等そうたる企業の事例分析により、これまで比較的研究蓄積のないアメリカの従業員代表制の帰趨が紹介されている。
④丸尾直美他編『福祉政策と労働市場』ノルディック出版(367頁,A5判) 本書は、労働市場と福祉政策への女性雇用・人口高齢化の影響について、日本とスウェーデンの経済・社会学者による共同研究の成果である。前回の不況に対して規制緩和と政策の社会的政策か、公共事業か金融機関の信用回復か、両国の政策は大きく分かれた。政策見直しに当たって、互いに学び合うことができるであろう。	⑨メアリー・C.ブリントン著『失われた場を探して』NTT出版(245+5頁,B6判) 著名な米国人社会学者による日本の若者問題の解説の書である。日本社会を知悉する著者は、ロスト・ジェネレーションの生成原因は家庭、学校、職場における「場」の崩壊であるとして、地下鉄車内でケイタイを操作する押し黙った乗客の姿を象徴的に紹介している。提案されている失われた場の再生策は有効であろうか。
⑤駒村康平他編『希望の社会保障改革』旬報社(223頁,B6判) 少子高齢化に加えて、雇用システムの不安定化、小さな政府路線等、社会保障制度をめぐる状況は厳しい。お年寄りに安心、若者に仕事、子どもに未来を保障するため、中堅・若手研究者で構成される「新しい社会保障像を考える研究会」は、財源論のみでない明確な理念の必要性を強調、各種の斬新な提案を行っている。	⑩西川真規子著『ケアワークを支える力をどう育むか』日本経済新聞出版社(245頁,B6判) 強い実践的動機にもとづく書である。ケアワークは誰にでもできると思われているが、高度な知識とスキルが必要であるという。家庭でのケアワークと有償ケアワークを同時に考察することにより、ケアワークに関する議論の混乱を整理するとともに、生命活動にかかわる労働をいかにしろしてきた風潮を憂慮している。

## 主な受け入れ図書

(2009年3月に労働図書館が収蔵した主な図書)

①マッテオ・モッテリニ著『世界は感情で動く』紀伊國屋書店(357頁,B6判)	③冷泉彰彦著『アメリカモデルの終焉』東洋経済新報社(247頁,B6判)
②山口浩著『リスクの正体!』バジリコ(252頁,B6判)	④やおき福祉会編『精神障害とともに働く』ミネルヴァ書房(ix+247頁,B6判)
③榎原英資著『間違えだらけの経済政策』日本経済新聞出版社(221頁,新書判)	⑤福祉臨床シリーズ編集委員会編『就労支援サービス』弘文堂(ix+184頁,B5判)
④アルバート・O.ハーシュマン著『連帯経済の可能性』法政大学出版局(ix+204頁,B6判)	⑥田路則子他著『キャリアデザイン』ファーストプレス(110頁,A5判)
⑤ポール・R.クルーグマン著『クルーグマンの視座』ダイヤモンド社(133頁,B6判)	⑦大宮登編『キャリアデザイン講座』日経BPソフトプレス(159頁,B5判)
⑥常盤文克著『ヒトづくりのおもみ』日経BP社(213頁,B6判)	⑧ジェイムズ・A.ウーテン著『エリサ法の政治史』中央経済社(ii+2+335頁,A5判)
⑦企業法務研究会著『実践コンプライアンス法務』学陽書房(219頁,A5判)	⑨野川忍他編『労働契約の理論と実務』中央経済社(2+15+395頁,A5判)
⑧村橋勝子著『カイシャ意外史』日本経済新聞出版社(253頁,B6判)	⑩中野洋著『甦る労働組合』編集工房朔(271頁,B6判)
⑨三枝匡他著『日本の経営』を創る』日本経済新聞出版社(390頁,B6判)	⑪高井昇他著『どうする派遣切り2009年問題』旬報社(127頁,A5判)
⑩田中弥生著『NPO新時代』明石書店(269頁,B6判)	⑫吉田典史著『非正社員から正社員になる!』光文社(241頁,B6判)
⑪西村英俊著『会社は毎日つぶれている』日本経済新聞出版社(233頁,新書判)	⑬岡清彦著『ルポトヨタ・キャン』非正規切り』新日本出版社(221頁,B6判)
⑫蓮尾登美子著『女性が部下をもったら読む本』同文館出版(206頁,B6判)	⑭『外国人労働者問題とこれからの日本』編集委員会編『研修生』という名の奴隷労働』花伝社(228頁,B6判)
⑬本田有明著『若者が3年で辞めない会社の法則』PHP研究所(234頁,新書判)	⑮フィリップ・ロートリン他著『ボーアウト』講談社(180頁,B6判)
⑭高梨昌他編著『非正規雇用ハンドブック』エイデル研究所(415頁,A5判)	⑯二村英幸著『個と組織を生かすキャリア発達心理学』金子書房(xi+190頁,A5判)
⑮河合克彦著『要員・総額人件費マネジメント』社会経済生産性本部生産性労働情報センター(254頁,A5判)	⑰岩淵弘樹著『遭難フリーター』太田出版(206頁,B6判)
⑯玄田有史他編『希望をめぐる対話』東京大学社会科学研究所(296頁,B5判)	⑱NHKスペシャル取材班他著『「愛」なき国』阪急コミュニケーションズ(276頁,B6判)
⑰竹崎孜著『貧困にあえぐ国ニッポンと貧困をなくした国スウェーデン』あけび書房(172頁,A5判)	⑲佐藤博樹編集代表『ワーク・ライフ・バランス』ぎょうせい(x+325頁,A5判)
⑱ロジャー・ローウェンスタイン著『なぜGMは転落したのか』日本経済新聞出版社(351頁,B6判)	⑳本田由紀他編著『仕事と若者』日本図書センター(vii+403頁,A5判)
⑲西谷敏著『労働法』日本評論社(333+607頁,A5判)	㉑ジェフリー・K.ライカー他著『人材開発』日経BP社(上=277頁、下=255頁,B6判)
⑳岩出誠編著『論点・争点現代労働法 改訂増補版』民事法研究会(45+989頁,A5判)	㉒日本弁護士連合会両性の平等に関する委員会編『日本女性差別事件資料集(全8巻+3巻)』すいれん舎(B5判)

### 労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書105,000冊、洋書26,000冊、和洋の製本雑誌20,000冊を所蔵している労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。その他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(460種)、洋雑誌(170種)、紀要(560種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。

開館時間：9:30～17:00

休館日：土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日～1月4日)、その他

電話番号：03(5991)5032 / FAX：03(5991)5659

利用資格：どなたでも自由に利用できます

貸出：和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンスサービス：図書資料の所在調査などのサービスを行っています